

第2回 BAMIS 国際フォーラム報告書

松井 崇（筑波大学大学院人間総合科学研究科体育科学専攻）

2012年2月13日、韓国・水原（スウォン）の Kyung Hee 大学にて、第2回 BAMIS（Body And Mind Integrated Science）国際フォーラムが開催された。筆者は光栄にもここで博士論文の一部を発表する機会を頂いた。

2月12日早朝、つくばを発ち、成田空港を経て、韓国に到着。まずは、韓国ナショナルトレーニングセンター（テルン）を視察した（写真1）。ナショナルトレーニングセンターはソウル郊外のテルンに位置する韓国の威信をかけたオリンピック選手育成施設であり、韓国人アスリートが世界のトップを目指して合宿トレーニングを積む場所である。韓国人アスリートの聖地だからか、空気がピンと張り詰めているように感じられた。今回見ただけでも、ウエイトトレーニング場、体操競技場、スケートリンク、柔道場、レスリング場、フェンシング場、ウエイトリフティング場、リハビリ室など、広大な敷地に素晴らしいスポーツ施設を備えていた。レスリング場では女子選手達がトレーニングしている姿を生で見ることが出来た。筆者は素晴らしい施設に触発され、ウエイトトレーニング場の綱上りに挑戦する機会を得た（写真2）。恥ずかしい姿だが、写真を載せておく。



写真1. 韓国ナショナルトレーニングセンター



写真2：綱上りに挑戦する筆者

2月13日、水原（スウォン）の Kyung Hee 大学にて、第2回 BAMIS 国際フォーラムが盛大に開催された（写真3）。プログラムの詳細は他稿に譲るが、BAMIS ならではの文系・理系を問わない幅広い内容の研究発表が展開された。発表は日本語で行われたが、韓国の先生方の日本語の上手さに感動した。筆者は若手研究者発表の2番目にトレーニングのために英語で発表させて頂いた（写真4）。現在の實力からすればまずまずの出来だったが、今後の更なるトレーニングの必要性を感じ、意欲も高まった。時間の関係で質疑応答

が省略されてしまったのが非常に残念だったが、発表後のフロアでいくつか質問を頂き、英語で議論することができた。筆者は日本語と英語の2カ国語でさえ不十分であるのに対し、韓国の方は韓国語、日本語、英語の3カ国語を使いこなしている姿を目の当たりにし、甘えていられないなと気が引き締まった。



写真3：会場となった Kyung Hee 大学



写真4：発表する筆者

今回の BAMIS 国際フォーラムに伴い、他分野の先生方や院生の方々と時間を共有することが出来たことが筆者にとって非常に画期的な経験となった。筆者は学群から数えると筑波大学に9年間在籍しているが、他分野の方々との交流は少ないのが現状で、挨拶程度は交わすもののゆっくり話をする機会はなかった。その点、今回の BAMIS フォーラムでは、他分野の方とたくさんの接点を持ち、お互いの研究の話もをすることも出来た。これは、非常に画期的な出来事だったと感じている。BAMIS はその名の通り身体と心の統合を目指す一方、筑波大学体育系の統合にもつながる素晴らしいプロジェクトであると思う。次回の BAMIS フォーラムが待ち遠しいが、そう感じているのは筆者だけではないはずである。このような素晴らしい経験をさせて頂いた、征矢先生をはじめとする BAMIS の先生方はもちろん、運営に奔走して下さった BAMIS 秘書の松田さん、掲載した写真を撮影して下さった水泳研の下門さん、韓国側の準備をして下さった先生方、そしてその他の関係者の方々に感謝の意を表したい。